

幼児と夏休み

千羽喜代子



そろそろ各園では今年の夏休みの計画の具体案を考え始めている頃でしょうが、幼児たちはどのような生活を描くのでしょうか。

幼稚園教育における夏休みの意義についての説明を見つけることが出来なかつたため、小学校教育における夏休みの意義を借りることにしよう。

現代学校教育学辞典（ぎょうせい、一九九三

年）では、次の五項目が挙げられている。

(1) 心身に必要な休養を取り、夏の特殊な条件のもとに健康の維持・増進を図る。

(2) みずからの生活の設計を立て、自主的・自律的な態度や生活習慣を養う。

(3) 常日頃の学校生活や学習活動では得られない体験をすることによって、個性を伸ばし教養を高



める。

(4)興味や関心を生かし、長時間をかけて取り組める学習活動を進めたり、日頃の学習を補ったり、深めたりする。

(5)家庭生活の中で、家族の一員としての役割を果たし、地域の諸活動に参加して、社会性を身につける。

子どもにとっても大人にとっても、共通していることは、休日という日は、日課や公的な規則などからの解放感や自由感のもとで、自分としての活動や生活ができることであろうが、夏休みという長期間にわたるときには、自他ともに、そこに或る目的性や有効性を期待するのもかも知れない。

この三月に卒業した斉藤有紀さん（大妻女子大学児童学科）は、卒業論文「幼稚園児にとつての『夏休み』の意味」に取り組み、幼稚園児にとつて、夏休みは、第一学期の心身の疲労の回復と第

二学期にむけての健康の維持・増進を図ることにあるが、夏休みの体験の何が第二学期の幼稚園教育に反映していくのか、そこから幼児の夏休みの在り方を考えようとの研究目的を立て、年長組クラスの幼児を対象に調査を行った。

その結果は、意外にも、現代の幼児の生活の実相を垣間見た思いであった。要約しよう。

①平常時と夏休みの生活時間を比較したとき、夏休みの食事時間は短くなっている子どもの方が多し。入浴時間は平常通りである。睡眠時間は平常時よりも長くなる傾向にあり、平均すると五七分長い。それは起床時間においても、就寝時間においても平常時よりも遅い傾向にある。遊びに要する時間は、対象児全員が平常時よりも長くなっており、平均三時間四七分、最大六時間、最小一時間三十分となっている。テレビ視聴時間は、八十七パーセントの幼児が平常時よりも長く、平均一時間五六分、最大三時間三十

分、最小三十分となっている。

平常時幼稚園に登園している約四時間ないし五時間を、主に、遊び、睡眠、テレビ視聴に置き換えて生活していることになる。但し、テレビ視聴依存の幼児には、第二学期の行動に変化を期待しにくいことを加えておく。

②遊びにおいて、誰と何処で遊んでいるかについては、平常時に友だちと遊んだり、ひとりで遊んでいる幼児の半数が、夏休みには、きょうだいと一緒に遊んでいる。遊ぶ場所は、平常時は屋内で遊んでいる幼児も、夏休みには屋外で遊んでいるものが多く、開放的な環境での遊びを求めていることを知る。

夏休みの方がきょうだいで遊ぶことが多いとする傾向は、夏休みでは、各家庭の生活リズムがそれぞれ異なるため、近所の子どもとよりもきょうだいで——ということのようである。きょうだいの繋りがより深められる機会とな

ることに注目しよう。

③夏休みの遊びにむけられた好奇心や遊びのアイデアの豊かさや自然体験などが第二学期の幼児の園生活の活動内容にどのように反映されていくかについては、以後、研究を積み重ねていかなければならないが、一つの観点は、子ども自身が夏休みの実体験を能動的に活かしているに置かれるのではないかと考えている。

先に、夏休みの意義について五項目を挙げたが、特に現代の幼児たちにとっては、夏休みは、親やきょうだいたちと深くかわるチャンスとして活かすために、家庭にあつて、親は、その実現のために力を添える必要があるのではないだろうか、夏休みの課題を提起する。

(大妻女子大学)